

事 務 事 業 評 価 シ ー ト

評価対象年度 平成 19 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	水道管路近代化推進事業（石綿セメント管更新工事）				
担 当 課 係 名	企業局 工 務 課	工 務 係	作成者	田中 司	
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	安心・安全で潤いのある生活環境のまち			総合計画の ページ
	基本計画	水道の安定供給と施設の整備			
	主要施策	施設の維持管理			76
予 算 費 目	上水道事業 会計	1 款 上水道資本的支出	1 項 建設改良費	3 目 改良工事費	
事 業 期 間	平成 3 年度 ~ 平成 21 年度		新規／継続の区分		継続
性 質 区 分	☐ 市民サービス ☒ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				
根 拠 法 令 等					
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務				
運 営 方 法	☐ 直 営 ☒ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☐ 補 助				

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	上水道区域内の給水対象者。
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	地震対策(漏水防止対策)として、老朽化した配水管(石綿セメント管)を廃止して新設することで、ライフラインとして安定供給を確保し、水道水の効率的な使用を目的とする。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	配水管布設 ダクタイル鋳鉄管 DIPφ100~150mm L=1,146.7m

【事務事業の推移】

(単位:千円)

	項 目	単位	18年度実績	19年度実績	年度実績
効果	活動指標	有収率	%	82.06	82.12
		総配水量	m ³	966,375	960,325
	成果指標	有収水量	m ³	793,037	788,619
投下コスト	項 目	総事業費	18年度決算額	19年度決算額	年度決算額
	事業費(人件費を除く)(A)	140,499	66,255	74,244	
	国 庫 支 出 金	32,561	16,563	15,998	
	県 支 出 金				
	地 方 債	104,800	2,000	57,200	
	そ の 他	3,000	92	1,000	
	一 般 財 源	138	47,600	46	
	人 件 費 (B)	—	3,927	4,036	
	職 員 数	—	0.5	0.5	
	職 員 平 均 人 件 費	—	7,853	8,071	
	(A) + (B) 投下コスト	—	70,182	78,280	
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)	—	855,252	953,239	
		—	73	82	
	市民1人当たりのコスト(円)	—	2,201	2,493	

【事務事業の今までの成果】

- ・ダクトイル鋳鉄管等に布設替を行うことにより漏水が減少し、末端給水圧が向上する。
- ・ダクトイル鋳鉄管等に布設替を行うことにより漏水が減少し、有収率が向上する。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	水道管に石綿セメント管を使用してることに對する、健康面での不安を解消できる。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性		判 定 に 至 っ た 理 由
A	A	現状のまま継続（実施）	石綿セメント管からダクトイル鋳鉄管に布設替えすることにより漏水が減少し、有収率が向上している。よって、A判定と判断した。
	B	見直しの上で継続（実施）	
	C	大幅な見直しの上で継続（実施）	
	D	休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
A	安全で安定した良質な水道水の供給や有収率向上のため必要な事業と考える。

一次評価診断図

